

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、自分の考えをもち主体的に行動できる、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな児童の育成を目指す。
なかよく 元気に がんばる 宮城の子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<p>保護者、地域社会に信頼され、ともに歩む学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い教育を提供し、士気の高い校風を創る学校 ・児童の健やかな成長を通して信頼を得る学校 ・児童も教師も保護者もともに学び、ともに成長する学校
○児童・生徒像	<p>なかよく、元気に、がんばる 宮城の子・・・教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよく・・・豊かな心、望ましい人間関係、社会貢献力 ・元気に・・・健康な心とからだ、基礎的生活習慣の確立、たくましい意志と体力 ・がんばる・・・確かな学力、問題解決能力と態度、創造力、表現力 ・宮城の子・・・自らの存在や学力に自信をもつ、地域への感謝と誇り
○教師像	<p>児童、保護者、地域社会の期待と信頼に応える教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織の一員として、自己の力を十分に発揮し、職責を果たす教師 ・主体的、創造的に教育活動を展開する教師 ・研究実践を日常化し、児童とともに、自らも成長しようと努力する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

現状

児童は、異学年交流する機会が多く、上級生がお手本となり、下級生はそれを見習おうとする意識が高い。教員は、中堅層は育ってきているが若手主体の学校で、授業力向上が課題である。地域は、墨田、荒川両川に囲まれており、本校は地域唯一の小学校として親しまれており、来年度迎える創立75周年に向け、地域とともに気運を高めてゆきたい。

成果

- 異学年交流の成果が、毎日の学校生活や学校行事で、温かな声援や声かけとしてみられ、学校としてもまとまりが認められた。
- 区調査通過率が目標としていた80%を越した。学力向上策が成果として現れている。
- 運動に親しむ事を通し、児童の体力向上が図れた。

課題

- 教職経験が短い教師が多く、日常の授業力を向上させ、児童の基礎力を確実に定着させ、活用力向上につなげさせる。
- 体力テストの柔軟性が長年の課題であるが、このような課題を本校だけの課題とせず、幼保や中学とも連携し、地域全体で課題解決を図るようにする。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心、健やかな体の育成	○	○	○	○	○
3	地域とともに歩む	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査通過率向上		到達度確認テスト 72% 令和3年度目標通過率 83%		国語 78.9%、算数 82.9% 2教科平均 80.9%		元年度の 80.6%から若干上昇。基礎事項の 確実な定着を目指す。 学習の定着状況と具体的な取り組みは 6(1) を参照。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	ICT 教育推 進	各教科	年間	教師 ICT を活用した授業 週 3 回以上 児童 タブレットを活用 した授業 月 1 回以上	週案に記録	100%実施	教師、児童とも目標 達成。	GIGA スクール構想が 一挙に進捗し、教師 の意識の向上があっ た。	◎
継続	読書活動	朝 国語	年間	朝読書 火水金 15 分 金曜朝、図書ボラさんによ る読み聞かせ 月 2 回	実施状況調査	100%実施	朝読書は達成。読み 聞かせは緊急事態宣 言により中止。	読み聞かせは、12 月 までは実施。1 月以降 中止。	○
継続	自主学習ノ ート	3 年生以 上 各教科	毎 週 1 回提出	江南中学校の自主学習ノ ートと同じ形で自主学習 に取り組み、中学校へのス ムーズな進学につなげる。	提出状況調査	宿題提出 95%	休校期間中から実 施、提出率 96%	江南中学校との連携 として、これからも 継続して取り組む。	◎

継続	いきいき生活がんばりカード	全児童	長期休業明け1週間	生活のリズムを整えるとともに、学習習慣のリズムも整える。	提出状況調査	カード提出100%	カード提出100% 保護者のコメント増	長期休業明けの生活リズム定着を家庭と連携し取り組めた。	◎
継続	漢字・都道府県・23区一斉テスト	漢、全学年 都道府県4年～6年 23区3年	漢、長期休業明け 都道府県、23区 1月	長期休業明けに行うことで学習へのスイッチを入れる。	テスト回答確認	正答率 80%以上 7割	漢字84% 都道府県69% 23区84% 全校76%	昨年からの取り組みがしっかりと定着。	◎
継続	10マス計算	算数	年間	計算のスピードを上げ、基礎学力の定着を図る	実施状況確認	100%実施	100%実施	計算力の定着が見られる。	◎
継続	MIMによる指導の充実	1年 そだち	年間	MIMの確実な定着による基礎力向上。	実施状況	1月1STステージ87%達成	1月1STステージ78.7%達成。 2月86.3%達成	毎回達成率は向上したが、目標に未達。視聴覚機器も活用し向上を図る。	△

<p>学力調査から 達成率 国語 79.1%、算数 83.2% 全体 81.2% (昨年度 国語 82.5%、算数 78.1% 全体 80.3%) 比較すると、国語は3.4低下、算数は5.1上昇、全体として0.9上昇した。</p> <p>国語 中学年では、説明的文章の内容・要旨の理解が。高学年では、文学的文章の内容・主題の理解の定着が低かった。改善のために、毎時間毎ねらいの明確化だけでなく、文章構成や、心情や背景の変化、文章から読み取れることを明らかにした授業を進めてゆく。これ以外にも、学年により躓きが見られた漢字、ローマ字、文法などをパワーアップタイムで取り組み向上を図る。</p> <p>算数 面積を求める、表やグラフの活用で躓く児童が多かった。面積では、公式の理解はもちろん、補助線の引き方など応用問題への取り組みが重要である。また、表やグラフでは、作表だけでなく、基にする数や比べる数など、多角的な見方ができるようにする。また、社会科や理科など、表やグラフを活用する学習での取り組みを徹底させる。また算数では、特に活用部分での躓きが見られたので、毎時間、その時間で学習したことを基にした応用問題に取り組みせ、活用力の向上を図りたい。</p> <p>全体で 休校期間が長期になり、学習習慣がしっかり付いていなかった児童への個別の支援がより重要となっている。パワーアップタイムや放課後補充学習などで、定着の向上を図ってゆく。</p>
--

重点的な取組事項－2		豊かな心、健やかな体の育成		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

心身ともに健康な児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動の完全実施。 ・全校体制での生活指導実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長、生活指導主任が毎朝校門で挨拶を行い、児童の実態を観察。 ・生活指導部が中心となり、共通認識の元で生活指導を実施。 	状況の変化により、児童主体の運動を展開する。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
望ましい人間関係作り	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート、児童の挨拶肯定的評価90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uを活用した児童理解 ・毎朝の登校指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケート87.8% ・年間2回実施したQ-Uを活用し、数値の変化に応じ個に対応した学級経営に生かした。また、毎年実施する学級編成替えにも活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目を見て自分から挨拶する習慣の徹底。 ・年2回実施するQ-Uをより活用し、学級経営に生かす。 	○
体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度体力テスト都平均以上70%の項目 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業公開、年1回以上公開。 ・持久走や縄跳びなど体力向上の取り組みの実施 ・byond2020の実施により、各自の目標を明確にもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の土曜公開で、学年別運動発表会を実施。 ・練習方法を工夫し、持久走縄跳びの取り組みを実施。 ・休校期間中の呼びかけや、教室内での取り組みなど、できる範囲で取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルディスタンスを取る中で、非常に制限が多かったが、工夫して取り組めた。 	○
生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・夕会、委員会、調査で早期発見、対応。 ・Q-Uを活用し学級経営を展開する ・欠席確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の生活指導夕会、月1回の委員会、年3回のいじめ調査で早期発見、組織で早期対応。 ・Q-U分析による学級編成。 ・朝9時半までに欠席理由確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夕会や各種委員会で、児童の情報共有を図り、早期発見、対応ができた。 ・毎年行う全学年学級編成替えにQ-U分析を活用する。 ・9時半までに欠席理由確認を確実に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有を図り、組織的な対応ができた。しかし、長欠傾向児童の増加など、これからも組織的に取り組む姿勢が重要である。 	○

重点的な取組事項－3	地域とともに歩む			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携事業の実施、内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携事業、幼保小連携事業実施 ・学校評価アンケートにおける「学校からの発信」肯定的評価90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携講演会や、年長児の学校探検を実施。 ・学校アンケートから、肯定的評価93.7%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施回数は減少してしまった。実施内容を濃くして、充実した連携を図る。 	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域・家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事前メール配信 100%。毎月 HP 更新 学校評価アンケート「学校からの発信」肯定的評価 90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙に加えメール配信で行事への意識を高める。 低、中学年で地域を扱った授業、年間3回以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事前に 100%メール配信を実施。 毎月 HP 更新。 学校評価アンケート「学校からの発信」肯定的評価 93.7%。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事前のメール配信は、手紙持参の必要がないため保護者に好評 HP の内容についての要望が多く、更新頻度を増す必要がある。 	○
江南中学との連携	<ul style="list-style-type: none"> 教員の合同研修会実施 学習の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 12月に合同研修会実施し、継続した指導を確認する。 自主学習ノートを3年生以上で毎週実施し、学習に対する主体性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 12月23日早大田中教授より、小中連携した評価のあり方の研修を行った。 休校期間から継続し3年生以上で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 制限がある中でも江南中学校との連携を継続することができた。特に自主学習ノートの取り組みが定着した。 	○
幼稚園保育園との連携	<ul style="list-style-type: none"> 連携行事実施 教員の保育園参観 年長、年中保護者への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣園年長児の図書体験、学校探検の実施。 担当教員による保育園参観 小学校より、保育・幼稚園保護者への情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 日程を分離し、3園が実施した。 3回の保育参観を実施。 保育園に保護者会資料を提供し、就学前の重要性を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限りの連携が図れた。これからも、幼保小の連携を確立させ、小1プロブレムの解消を図ってゆく。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

課題

全体的に、昨年より向上したが、学年の偏りが見られる。正答率が区平均より下回ったのが、2年生の算数、5年生の国語と算数である。2年生の算数では、算数用語の理解が浅く、面積や図形問題、文章題の習熟の低さが見られる。5年生の通過率は、国語で72.5、算数で63.7であり、学習の定着状況に大きな課題がある。国語では、説明文・物語文ともに要旨の理解が不十分で、活用問題に対応できていない児童が多い。算数では、小数の計算やグラフや表の読み取りに課題が見られる。

対策

授業では、まず足立スタンダードの徹底により、1時間毎の授業のねらいを明確にして、児童がその1時間で何がわかったのかを明確にさせる。加えて、算数では、新たな用語などを確実に定着させ、活用できるようにさせる。国語では、文章で何を伝えたいのかをしっかりと意識させ読解させる習慣を身に付けさせる。

毎週水曜日5校時の「基礎の時間」を活用し、この習熟に応じた課題に取り組ませる。

毎週金曜日の放課後補習で、個別指導が必要な児童に対して、担任と専科教諭が分担し個別指導を行う。

成果

○コロナ禍の下、国・算・理・社・英語(外国語)の主要教科は、年間計画、授業時数を達成することができた。

○区調査達成率が、目標としていた83%には達しなかったが、休校明け間もない時期での実施でも、昨年より若干でも向上した。

課題

○授業中の会話が制限される中、新学習指導要領に則った授業を実施できるよう、日常の授業の見直しを図ってゆく。

○児童が成就感、達成感もてる学校行事を状況に応じた形で実施する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様、地域の皆様には、このような状況の時でも、宮城小学校に対して常に温かなご支援やご理解をいただき感謝申し上げます。本年度は、臨時休校で始まりましたが、学校再開後は順調に授業が進み、上記のような成果をあげることができました。来年度は、コロナの状況が改善され、宮城小の特色である、異学年集団の交流や、工夫された学校行事の実施により、「なかよく」「げんきに」「がんばる」宮城の子を育ててゆきたいと考えております。

(3) その他(学校教育活動全般について)

○なかよく ○元気に ○がんばる ○宮城の子 を育成するため、教職員一同取り組んで参りました。

なかよく 進んで挨拶をすることで相手を認め合い、一人一人の違いをそれぞれの良さと認められるような人間関係を創ってゆきます。

元気に 自分自身の健康に感心をもち、じょうぶな身体を作ることができる児童の育成に努めます。

がんばる 自分のめあてをもつと、その達成に向け全力を出す。そんな姿が今年度もみられました。宮城小のよさは、頑張る友達の姿を、精一杯応援する子供がたくさんいることです。学習でも、運動でも自分の目標達成に向け努力する児童の育成に努めます。

宮城の子 自分たちの学校、自分たちの地域に愛情と誇りをもち、地域の一員としての自覚のある児童の育成に努めます。